２学期終業式校長講話（抜粋）

今日で、令和３年度２学期が終わります。今からおよそ４か月前の始業式で、大リーグ、ロサンゼルスエンゼルスの大谷翔平選手が「運」「幸せ」を呼び込むために、ごみ拾いを高校時代からしているという話をしました。覚えていますか？大谷選手は、「ごみ拾い」の他にも、「あいさつ」「そうじ」「道具を大切に使う」「本を読む」「審判さんへ対する礼儀正しい態度」「プラス思考」、そして「応援される人間になる」という目標を立て努力してきました。そんな大谷選手だからこそ、周りの人たちの協力や応援が得られ、野球の技能を高め、ツキを呼び、今ではメジャーリーグを代表する選手になれたという話でした。

校長先生は、よいことは「まね」をすべきだと思っています。自分のためになることは、どんどん「まね」をすればよいのです。大谷選手のように、１４０m級のホームランを打ったり、１６０kmを超える剛速球を投げたりすることは、到底真似できません。しかし、大谷選手の「ものの考え方」はすぐにでも、誰にでも真似することができます。

池田小には、１２０年以上大切にしてきた教え「礼儀・協同・勤労」や「池田っ子１０の約束」があります。大谷選手も頑張ったように、皆さんも、この教えを身に付けることで自分の宝物としてほしいのです。そうすれば、どのような道に進んでも、大谷選手にも負けない一流の職業人になれることだと思います。この 2 学期、池田の教えを意識して頑張れたでしょうか？頑張れた人もいれば、頑張れなかった人もいるかもしれません。頑張れた人には、「徳」という「よい行いやよいものの考え方」が身に付いてきています。これからも続けていってください。忘れていた人や頑張りが足りなかったという人ですが、心配はいりません。もうすぐ新しい年「令和４年」が始まります。

「1年の計は元旦にあり」という言葉があります。元旦とは1年の最初の日の朝のことです。「計」には計画という意味があります。つまり、何かを身に付けたり、自分自身を成長させるためには、最初にしっかりとした計画を立ててから臨むことが大切だということです。できた人もできなかった人も、新しい年の初めに、「1年間の誓い」立ててください。

「1年の計は元旦にあり」。令和４年を、自分自身を高め、成長させる１年とするためにも「礼儀　協同　勤労」や「池田っ子１０の約束」を誓いの中に入れて、頑張ってほしいと思います。新しい年まで、あと９日です。皆さん、よい年を迎えてください。新しい年が、皆さんにとって、素晴らしい年となることを祈っています。

保護者の皆様方のサポートに感謝！

12月20日(月)、12名の保護者の方が、冬休みの宿題の綴じ合わせに来てくださいました。和気あいあいとした雰囲気の中、手際よく作業が進んでいました。完成したものは、すぐに担任の下へ届けられました。私が校内を巡回していると、教室から「ありがとうございました」という子ども達の声が響いてきました。宿題を届けてくださった保護者の方にお礼を言っていたのでしょう。この綴じ合わせ作業の他にも、学校共有部分の消毒やトイレの清掃・消毒、読み聞かせ、朝の交通安全指導、5 年生の「稲作体験学習」における児童引率、

PTA クイズ大会の実施等、多くのご支援を頂きました。池田の子ども達は本当に幸せです。教職員を代表して、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

薬物乱用防止教室 6 年生

12 月 8 日（水）薬物乱用防止教室が行われました。毎年、中学校進学を控える 6 年生を対象に行っています。

八幡西警察署少年係の稲田様を講師にお迎えして、薬物の怖さについて学びました。人間の「脳」や「内蔵」とほぼ同じ成分でできている発泡スチロールをシンナーの中に入れる実験は衝撃的でした。子ども達は、容器の中で瞬時に溶けていく発泡スチロールを見て、驚きの声を上げていました。シンナーを吸引することで脳が溶け大きなダメージを受けることや依存症になってやめられなくなるといった怖さを実感することができました。稲田巡査の『最初からいきなり薬物に手を出す人はいません。最初の入口は、「タバコ」「お酒」「夜遊び」といったものです。この入口に入ってしまうと、最初は遠くにあったはずの薬物の入口が、あっという間に目の前に近づいてきます。だから、小学生や中学生は、この手前の「タバコ」「お酒」「夜遊び」といった入口に入らない生活さえ送っていれば、薬物に傷つけられることはないのです』という話も心に響きました。最後の「生きていれば、辛いことは誰にでもある。苦しいことや悲しいこともある。そんな時は、みんなの味方である担任の先生や保健の先生、家族などに相談しよう。助けを求めることができる子こそ本当に強い子の証なのです」という稲田巡査のメッセージは、子ども達に勇気と安心を与えてくれたのではないでしょうか。中学校進学を控えた子ども達にとって、この日の学習は、大変有意義で大切なものとなりました。

感染防止対策の徹底を図っていきましょう

１月に入り、収束傾向にあった「新型コロナウイルス感染症」が再拡大しています。福岡県でもここ３日間連続で感染者数が２００名を超えるなど、予断の許さない状況です。つきましては、これまでと同様に以下 5 点の「ご家庭における新型コロナウイルス感染防止対策」の徹底にご協力ください。

① 保護者による朝の健康観察と健康チェックリスト表への記入
② 風邪症状がある場合には登校を控える
③ マスクの着用（不織布マスク推奨）
④ 放課後、友達の家に上がって遊ばない。公園で遊ぶ時もマスクを付ける。おかしのやり取りはしない
⑤ 帰宅したら石鹸での手洗いと消毒
⑥ 定期的に 2 方向の窓を開けて換気を行う

避難訓練をしました。

１月１７日（月）２時間目、地震を想定しての避難訓練を行いました。緊急地震速報が流れた後、教頭先生の放送での指示を受け、机の下に身を隠しました。通常であれば、その後、運動場に避難するところですが、新型コロナウイルス感染症が拡大傾向にあることから、「密」を避け、教室内や廊下で整列するところまでを行いました。担任によりますと、約束を守って整然と避難行動が取れていたということでした。昨日から今日にかけて、日本から８０００km 離れた南の島「トンガ王国」の近海で海底火山が噴火しました。被害の状況ははっきりとはしていませんが、トンガ王国は、親日国で、東日本大震災の時には多くの支援をしてくれた日本と交流の深い国です。大きな被害が出ていないことを祈るばかりです。昨年末から日本国内においても、地震が頻発しています。近い将来、日本において想定外の大きな地震が発生する可能性を指摘する専門家もいます。私たちにできることは、もしもの時を考え、物心両面の備えをしておくことだと思います。この機に、ご家庭で、大きな地震が発生した時にとるべき行動について話し合われてみてください。**【①家庭における避難訓練、②家庭内における危険個所の確認、③どこに避難するのか（避難場所の確認）、④自らの身を守る行動を取ることを最優先する、】**

「スマホの怖さを学びました」（5・6 年生）

12 月 14 日（火）**規範教育「考えるスマホ教室」**を行いました。密を避けるため、5 年生は 3 校時、6 年生は 4 校時と分かれてお話を聴きました。「考えるスマホ教室」とは、ソフトバンクと八幡西警察署がタイアップして行っている事業です。それぞれの専門性を活かしながら、子ども達に、インターネット利用の危険性やフィルタリングの重要性について理解させます。また、併せて、インターネットの適正利用と非行防止につなげていくことも目的としています。ソフトバンクの方からは、「スマホとはどんなものか」「アプリ使用でのトラブル」「個人情報流失の危険性」「インターネットに潜む危険」などについて、ユーモアを交えながら、分かりやすく説明して頂きました。八幡西警察署からは、少年課の女性警察官が講師としてきてくださいました。6 年生は、12 月 8 日（水）に行われた「薬物乱用防止教室」でお話を聴いているので、この日は、5 年生のみ話を聴きました。インターネットを通じて、犯罪に巻き込まれた子どもや、非行への道を歩んでしまった子どもの話を聴きました。子ども達の表情から、インターネットの危うさをしっかりと受け止めていることが分かりました。ソフトバンクの方の『「スマホ」は、使う人を「幸せ」にする道具です。でも、使い方を誤ったり、正しい知識をもっていなかったりすることで、人を「不幸」にしてしまう道具にもなります』という話が心に残りました。スマホから子ども達を守るために、ご家庭で以下の 3 点についてもう一度ご確認ください。

①スマホをきっかけにした犯罪被害が増えていることを認識する。

②子どもが利用しているコミュニティーサイトについて把握する

③スマホの利用について「わが家のルール」をつくる

感染防止対策を強化していきましょう

新型コロナウイルス感染症の拡大に歯止めがかからない状況になってきました。北九州市内でも複数校で、学年閉鎖や学級閉鎖となっています。クラスターが発生した学校もあるとのことです。今回の変異ウイルス「オミクロン株」の特徴は、感染しても風邪症状などの軽症か無症状であることが多いということです。しかし、軽症もしくは無症状であるために、感染したという自覚がないまま感染を広げてしまうことという結果になっています。重症化の割合が低いとはいえ、年長者や基礎疾患を持っている方が感染すると重篤化する危険があります。オミクロン株を甘く見ることなく、感染防止対策の徹底を図っていきましょう。

～学校にウイルスを持ちこまないために～

◆保護者による朝の健康観察と健康チェックリスト表への記入。

◆風邪症状がある場合には、無理をせず登校を控え、早めに病院受診をする。

給食週間校長講話（1月２４日）

今から８０年ほど前のことです。日本はアメリカや中国など多くの国々と戦争をしました。戦争によってたくさんの町が焼かれ多くの人が亡くなりました。戦争が終わっても食べる物がなく子ども達はお腹をすかせていました。栄養状態が悪くなり死んでいく子どももいました。このままではいけないということで、学校給食を始めてくださいという声が高まりました。そして、アメリカ合衆国やヨーロッパの国々からの多くの援助物資をもらうことで、昭和２１年１２月２４日に中断されていた学校給食を再開することができるようになったのです。

援助物資の中に脱脂粉乳や小麦粉がありました。脱脂粉乳とはミルクの粉を水に溶かしたものです。校長先生も小学校の２年生ぐらいまで飲んでいました。この脱脂粉乳は、栄養価は高いのですが、においがきつくておいしくありませんでした。鼻をつまんで一気に飲み干していたのを思い出します。しかしこの脱脂粉乳や小麦粉から作られるパンが、栄養不足

だった当時の子ども達の命を救ったのです。日本では、学校給食が再開された 12 月 24 日を記念して「学校給食感謝の日」と定め、その後、冬休みに重ならない１月２４日から３０日を「全国学校給食週間」としました。池田小学校でも、今日１月 24 日から２８日までを給食週間と定め、栄養教諭の浜谷先生や給食委員会のお友達が中心となって様々な取組を行っていきます。

給食がはじめて行われたのは今から１３０年くらい前の明治２２年です。山形県の小学校で始まりました。献立はおにぎり、焼き魚、漬け物だったそうです。今日の池田小学校の献立は、米飯、納豆、筑前煮、かぶの味噌汁、牛乳ですから、今と比べるとずいぶんと質素です。でも、当時の人々にとっては、大変なご馳走で、お家の人も子ども達もとてもありがたく思っていたのです。

池田小学校では、栄養教諭の浜谷先生が、美味しく栄養のバランスの取れた献立を考えてくださっています。そして、給食調理士さん達は、そのレシピを基に腕によりをかけておいしい給食をつくってくださっています。本当にありがたいことです。さらに、給食には浜谷先生や給食調理士さん以外にもいろいろな人が関わってくださっています。米や野菜、果物を作る農家のみなさん、魚などを獲ったり、養殖したりする漁師さん、牛などを飼育する酪農家のみなさん、パンや米飯、乳製品、デザートなどを作る職人さん、給食物資をトラックで運ぶ運転手さん。そして、学校には、給食指導をしてくださる担任の先生や給食費の取りまとめをしてくださる事務の先生方もいます。給食週間の取組を通して、給食に関わる仕事をしてくださっている方々や給食をいただけることに感謝できる心優しく、思いやりにあふれた人になってほしいと思います。これで校長先生の話を終わります。

ミュージアムツアー（３年生）

１月１９日（水）３年生が、北九州市立美術館に行きました。北九州市が、毎年、市内全小学校３年生を対象に実施している「ミュージアムツアー」という芸術鑑賞教室に参加したのです。美術館は初めてという児童も多く、目を皿のようにして作品に見入る姿が見られたそうです。また、学芸員の方の話を聞く態度も素晴らしかったとのこと。３年生の確かな成長を感じ、嬉しく思いました。この芸術体験学習がきっかけとなって、将来、日本を代表するような芸術家が本校３年生の中から生まれるかもしれませんね。

本校児童が「福原賞」の表彰を受けました

2月14日（月）本校6年生の下地絢萌（あやめ）さんと4年生の下地伶旺（れお）さんの姉弟が「福原賞」の表彰を受けました。コロナ禍でなければ、小倉北区役所内において、教育長から表彰を受けるところでしたが、今回は、リモートでの表彰となりました。

「福原賞」とは、学校法人「福原学園」を創設した故福原軍造氏のご遺族から「学校の教育に役立てて欲しい」という思いで寄せられた寄付金を元に、平成元年に創設されたものです。北九州市教育委員会では、子どもたちの健全育成を図るとともに、学校教育の充実・発展のために、顕彰すべき行為（善行やボランティア活動、地域貢献等）のあった児童生徒を表彰しています。

今回、下地姉弟の受賞理由は、「善行」です。散歩中に転倒し動けなくなっていたご高齢の女性を助けてあげたことが認められての受賞です。この出来事の数日後、ご婦人の娘さんから学校に連絡が入りました。「自分の母親が転倒し、怪我をした際に、池田小学校の子どもに大変お世話になった。お礼が言いたいので、名前を教えていただけないだろうか。」というものです。二人の行為は、ご婦人やその娘さんにとって、心にしみるものだったに違いありません。

本人たちは、「困っている人がいたら、助けるのは当たり前のこと。それで表彰されるのはちょっと恥ずかしい」と言っていました。しかし、困っている人を助けるという「当たり前」のことが、さりげなく自然にできることが素晴らしいことなのです。この二人の表彰で、池田小学校の「助け合いの輪」が一層広がっていってくれることを願っています。